

【プレゼンテーション資料】

**2012年度第3四半期(9カ月累計) 連結業績
および ソニー生命の2012年12月末MCEV**

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2013年2月14日

1

＜ネットカンファレンス(電話会議)による決算説明会＞

日時 : 2013年2月14日(木) 16:00～ 17:00

内容 : 「2012年度第3四半期(9カ月累計) 連結決算説明会」

発表者: 専務取締役 渡辺 寛敏

ソニーフィナンシャルホールディングス
渡辺 でございます。

ただ今より、お手元のプレゼンテーション資料に沿って、
当社グループの2012年度第3四半期 連結業績についてご説明いたします。

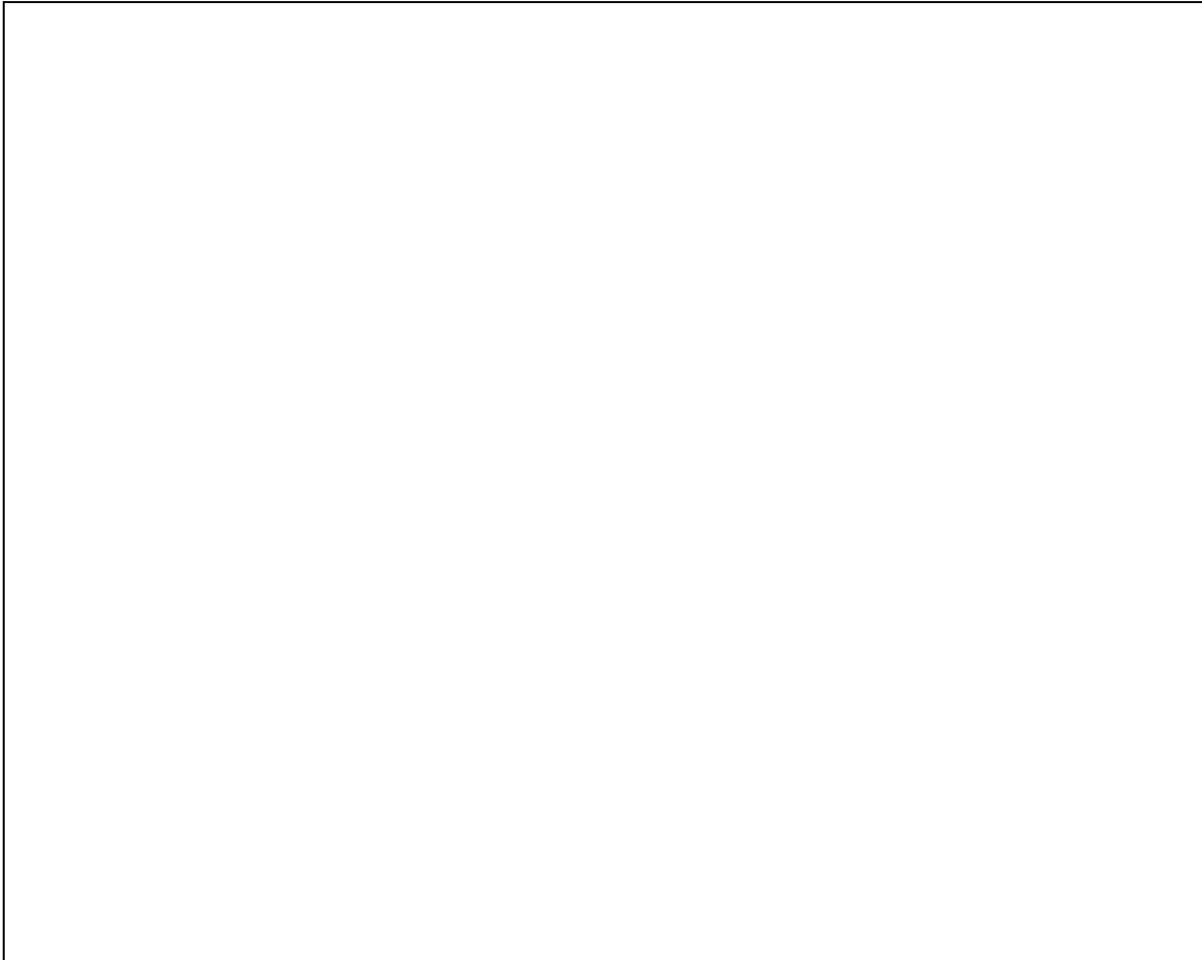
スライド4をご覧ください。

■ 2012年度第3四半期(9カ月累計) 連結業績	P. 3
■ 2012年度 連結業績予想	P.26
■ ソニー生命の2012年12月末MCEV および経済価値ベースのリスク量	P.28
■ 参考情報	P.30

免責事項:

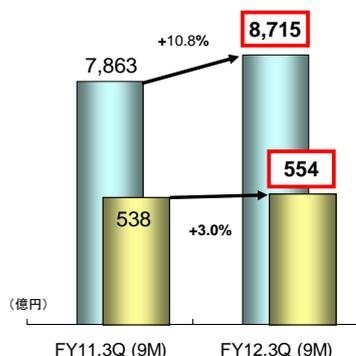
このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。当社グループはいずれもそのような見直しの義務を負いません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

**2012年度第3四半期（9カ月累計）
連結業績**



連結業績ハイライト(1)

□ 経常収益 □ 経常利益



(億円)		FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	前年同期比	
生命保険事業	経常収益	7,039	7,843	+804	+11.4%
	経常利益	495	517	+21	+4.4%
損害保険事業	経常収益	601	638	+36	+6.1%
	経常利益	16	10	▲6	▲37.8%
銀行事業	経常収益	238	251	+13	+5.5%
	経常利益	25	25	▲0	▲1.0%
セグメント間取引等の消去 ^{*1}	経常収益	▲15	▲18	▲2	—
	経常利益	0	1	+0	+95.1%
グループ連結	経常収益	7,863	8,715	+851	+10.8%
	経常利益	538	554	+16	+3.0%
	四半期純利益	226	327	+100	+44.5%

(億円)		12.3末	12.12末	前年度末比	
グループ連結	総資産	72,414	77,967	+5,553	+7.7%
	純資産	3,478	3,859	+381	+11.0%

*1 経常利益については、主として持株会社(SFH)にかかる損益

*2 包括利益: FY11.3Q (9M) ……409億円、FY12.3Q (9M) ……468億円

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

4

まず、当社グループの連結業績についてご説明いたします。

連結経常収益は、全ての事業において増加した結果、前年同期に比べ10.8%増加し、8,715億円となりました。

連結経常利益は、前年同期に比べ3.0%増加の554億円となりました。

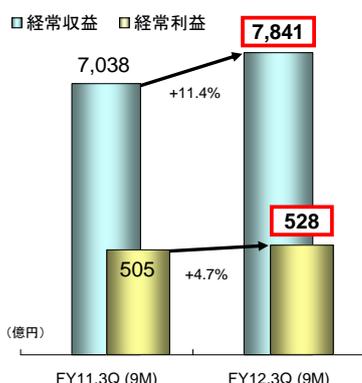
連結四半期純利益は、経常利益の増加に加え、法人税率引き下げに関連して前年同期に繰延税金資産の一部を取り崩した影響もあり、前年同期比44.5%増の327億円となりました。

次スライド5では、各事業の業績要旨を記載しておりますので後ほどご覧ください。

スライド6をご覧ください。

- **生命保険事業:**
保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、および昨年12月末にかけての市況回復にともない特別勘定の資産運用損益が改善したことなどにより、経常収益は増加。経常利益は、前年同期に計上した東日本大震災関連の支払備金の戻入益や債券入替にともなう有価証券売却益が当期では減益要因となったものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少や逆ざやの解消などにより、増加。
- **損害保険事業:**
主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は増加。一方、経常利益は、自動車保険における保険金単価の上昇などにより損害率が上昇したことから、減少。
- **銀行事業:**
2011年7月1日にソニー銀行が、㈱スマートリンクネットワークを子会社化し、当期においては同社が期首より連結対象であったことにより役務取引等収益が増加し、経常収益は増加。一方、経常利益は、住宅ローン取引に係る利益が増加したものの、外貨関連取引に係る利益が減少したことから、ほぼ横ばい。
- **SFH連結:**
連結経常収益は、生命保険事業、損害保険事業、および銀行事業のすべての事業において増加し、前年同期比10.8%増の8,715億円。連結経常利益は、生命保険事業において増加、損害保険事業および銀行事業において減少した結果、前年同期比3.0%増の554億円。四半期純利益は、法人税率引き下げに関連して前年同期に繰延税金資産の一部を取り崩した影響もあり、前年同期比44.5%増の327億円。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



- ◆ 前年同期比 増収増益。
- ◆ 保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加。
- ◆ 資産運用収益は、昨年12月末にかけての市況回復にともなう特別勘定の資産運用損益の改善などにより増加。
- ◆ 経常利益は、前年同期に計上した東日本大震災関連の支払備金の戻入益や債券入替にともなう有価証券売却益が当期では減益要因となったものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少や逆ざやの解消などにより、増加。

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(億円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	前年同期比	
経常収益	7,038	7,841	+803	+11.4%
保険料等収入	6,020	6,573	+552	+9.2%
資産運用収益	835	1,114	+278	+33.3%
うち利息及び配当金等収入	725	803	+78	+10.8%
うち金銭の信託運用益	39	39	▲0	▲0.6%
うち有価証券売却益	70	23	▲46	▲66.6%
うち特別勘定資産運用益	—	247	+247	—
経常費用	6,533	7,312	+779	+11.9%
保険金等支払金	2,164	2,155	▲9	▲0.4%
責任準備金等繰入額	3,149	4,095	+945	+30.0%
資産運用費用	298	94	▲203	▲68.3%
うち有価証券売却損	18	15	▲2	▲14.1%
うち特別勘定資産運用損	187	—	▲187	▲100.0%
事業費	776	800	+23	+3.1%
経常利益	505	528	+23	+4.7%
四半期純利益	222	311	+88	+40.0%
(億円)	12.3末	12.12末	前年度末比	
有価証券残高	45,450	49,576	+4,126	+9.1%
責任準備金残高	48,430	52,525	+4,095	+8.5%
純資産額	2,648	2,986	+337	+12.8%
その他有価証券評価差額金	340	457	+117	+34.5%
総資産額	52,228	56,608	+4,380	+8.4%
特別勘定資産	4,442	4,878	+435	+9.8%

ソニー生命の、単体業績のハイライトをご説明いたします。

経常収益は、前年同期に比べ11.4%増加の、7,841億円となりました。そのうち、保険料等収入は、前年同期に比べ9.2%増加し、6,573億円となりました。資産運用収益は、昨年12月末にかけての市況回復にともなう特別勘定の資産運用損益の改善などにより、前年同期に比べ33.3%増加し、1,114億円となりました。

経常利益は、前年同期に計上した東日本大震災関連の支払備金の戻入益や債券入替にともなう有価証券売却益が当期では減益要因となったものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少や逆ざやの解消などにより、前年同期に比べ4.7%増加し、528億円となりました。

また、2012年12月6日付でSony Life Insurance (Philippines) Corporationの事業を譲渡したことにより、関係会社株式売却損10億円を特別損失に計上しました。

経常利益から特別損失、契約者配当準備金繰入額、法人税等合計を差し引いた四半期純利益は、法人税率引き下げに関連して前年同期に繰延税金資産の一部を取り崩した影響もあり、前年同期比40.0%増の311億円となりました。

スライド7では、ソニー生命の主要業績指標を記載しております。続きまして、スライド8をご覧ください。

ソニー生命 主要業績指標(単体)



(億円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	増減率
新契約高	32,271	32,159	▲0.3%
解約・失効高	15,619	14,515	▲7.1%
解約・失効率	4.50%	4.03%	▲0.47pt
保有契約高	358,079	372,036	+3.9%
新契約年換算保険料	531	511	▲3.7%
うち第三分野	130	131	+0.9%
保有契約年換算保険料	6,276	6,578	+4.8%
うち第三分野	1,473	1,557	+5.7%

(注) 新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率。

(億円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	増減率
資産運用損益(一般勘定)	725	771	+6.5%
基礎利益	509	570	+12.0%
逆ざや額(▲)	▲17	11	—

(注) 逆ざや額のプラスは順ざや額を表します。

	12.3末	12.12末	前年度末比
単体 ソルベンシー・マージン比率	1,980.4%	2,240.5%	+260.1pt

(注) 単体ソルベンシー・マージン比率は、いずれも2012年3月末(2011年度末)から適用された現行基準により算出したもの。

<主な増減要因>

◆ 家族収入保険の販売が減少したものの、生前給付保険などの販売が増加したことにより、ほぼ横ばい。

◆ 解約・失効率は、定期保険を中心に総じて低下。

◆ 生前給付保険などの販売が順調だったものの、がん入院保険の販売が減少したことにより、減少。

◆ 有価証券売却益が減少したものの利息及び配当金等収入が増加したことにより、増加。

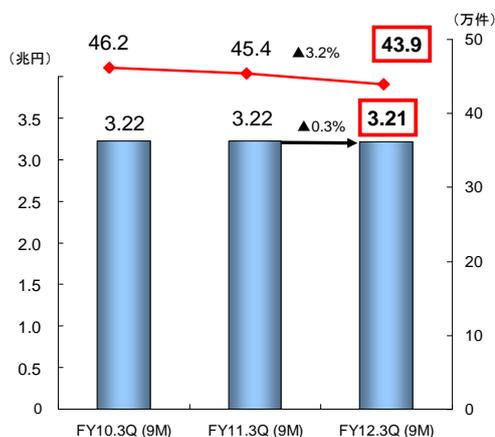
◆ 基礎利益は、前年同期に計上した東日本大震災関連の支払備金の戻入益が当期においては減益要因となったものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少や逆ざやの解消などにより、増加。

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(1)

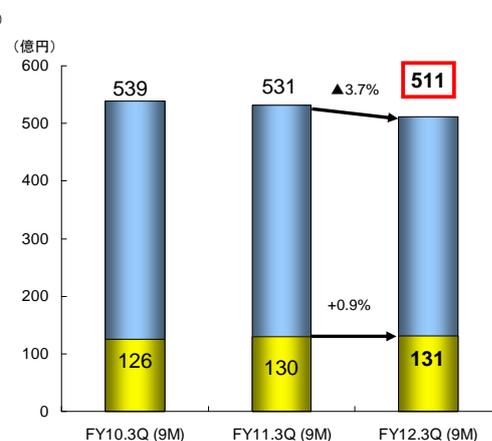
新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

■ 新契約高 — 新契約件数



新契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■ 新契約年換算保険料 ■ うち、第三分野



※新契約高は百億円未満切捨て、新契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております新契約高は、家族収入保険の販売が減少したものの、生前給付保険などの販売が増加したことにより、前年同期に比べほぼ横ばいの、3兆2千百億円となりました。

なお、昨年10月から12月の3カ月間では、新契約高の伸びは回復し、前年同期に比べ2.3%増の1兆2千億円となりました。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期に比べ3.2%減少し、43万9千件となりました。

(右側のグラフ)

新契約年換算保険料は、生前給付保険などの販売が増加したものの、がん入院保険などの販売が減少したことから、前年同期に比べ3.7%減少し、511億円となりました。

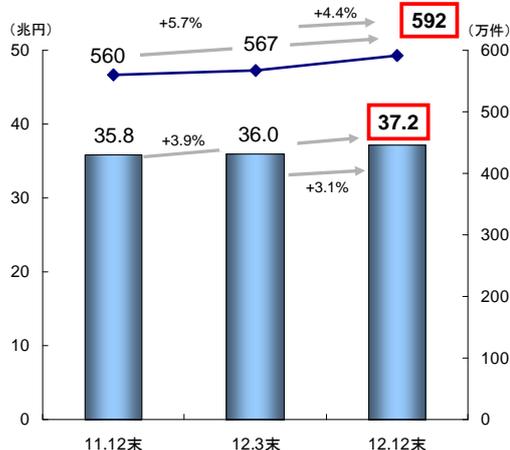
このうち第三分野は、前年同期比0.9%増加し、131億円となりました。

スライド9をご覧ください。

ソニー生命の業績(2)

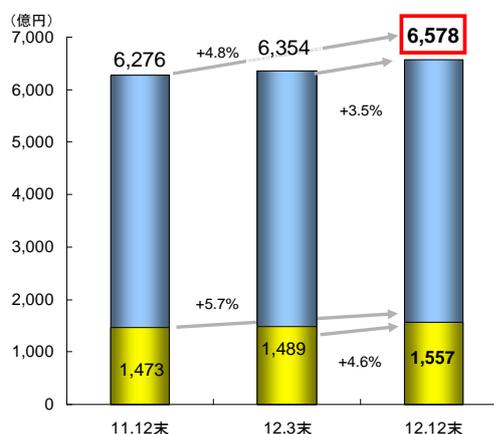
保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

■ 保有契約高 — 保有契約件数



保有契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■ 保有契約年換算保険料 ■ うち、第三分野



※保有契約高は千億円未満切捨て、保有契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

新契約および解約・失効等を織り込んだ保有契約の状況についてご説明いたします。

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております保有契約高は、新契約の獲得と解約・失効率の低下により、前年同期末に比べ3.9%増加の37兆2千億円となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、前年同期末に比べ5.7%増加の592万件となりました。

(右側のグラフ)

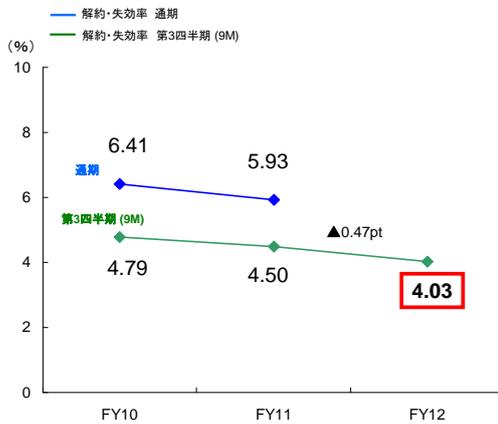
保有契約年換算保険料は前年同期末に比べ4.8%増加の6,578億円となりました。

このうち第三分野は、前年同期末に比べ5.7%増加の1,557億円となりました。

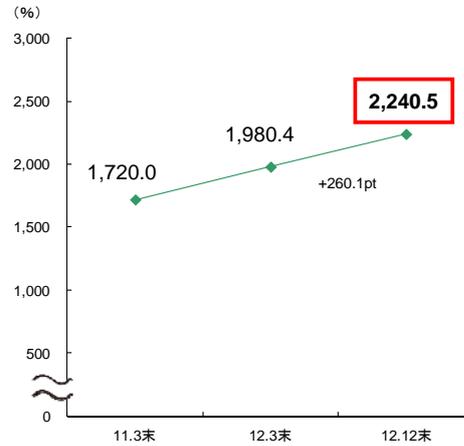
スライド10をご覧ください。

解約・失効率* (個人保険+個人年金保険) ＜通期・第3四半期(9カ月累計)＞

*解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない
解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率



単体ソルベンシー・マージン比率



(注) 単体ソルベンシー・マージン比率は、いずれも2012年3月末(2011年度末)から適用された現行基準により算出したもの。

(左側のグラフ)

解約・失効率は、定期保険を中心に総じて低下し、前年同期に比べ0.47ポイント低下の4.03%となりました。

(右側のグラフ)

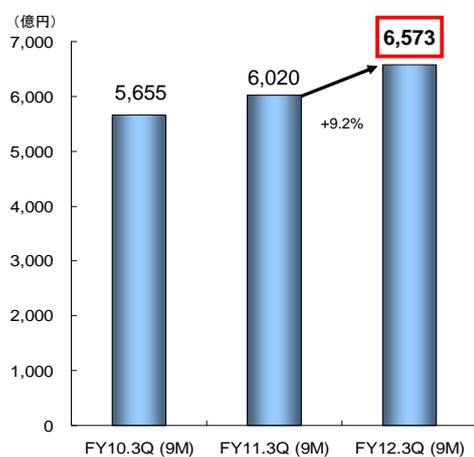
ソルベンシー・マージン比率は、前年度末に比べ260.1ポイント上昇し、2,240.5%となりました。

スライド11の、保険料等収入および経常利益につきましては、先のご説明のとおりです。

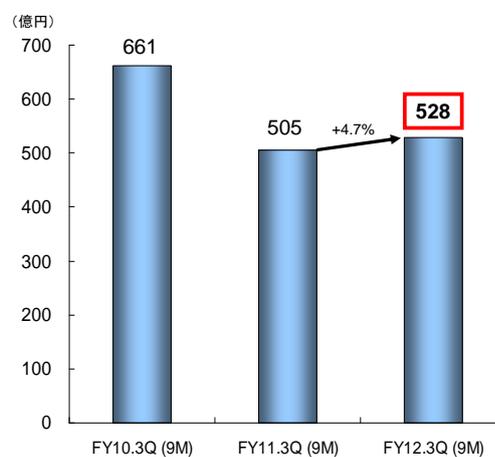
続きまして、スライド12をご覧ください。

ソニー生命の業績(4)

保険料等収入



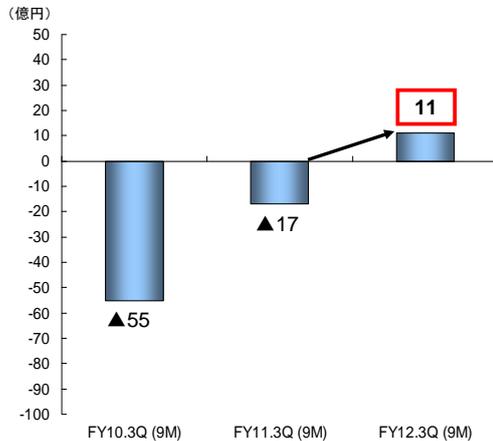
経常利益



※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

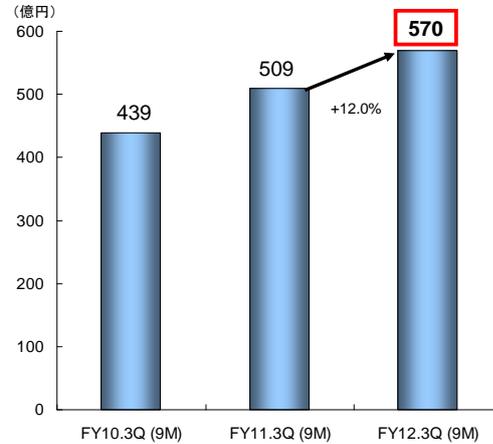
ソニー生命の業績(5)

逆ざや額



(注) 逆ざや額のプラスは順ざや額を表します。

基礎利益



(参考) 変額保険の最低保証に係る一般勘定の責任準備金繰入額

			(単位: 億円)
FY10.3Q (9M)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	前年同期差
45	56	12	▲44

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

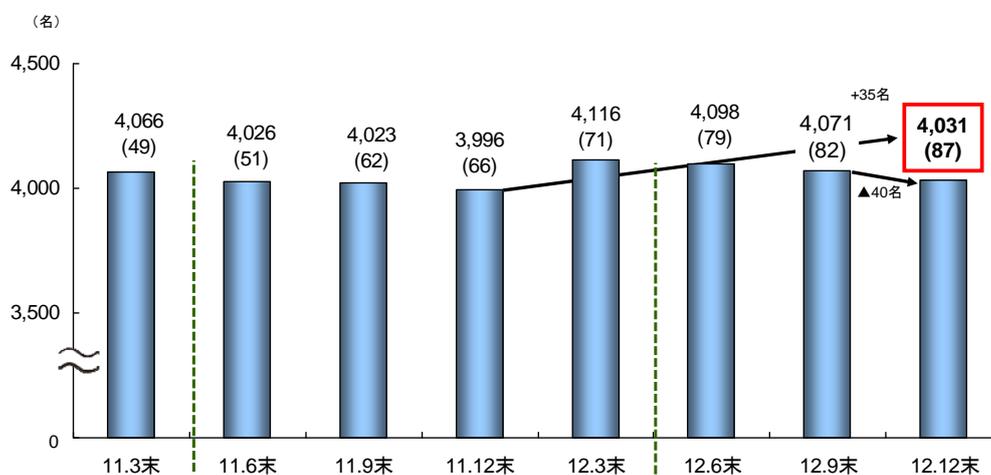
逆ざや額は、利息及び配当金等収入の増加にともない、11億円の順ざやとなりました。

(右側のグラフ)

基礎利益は、前年同期に計上した東日本大震災関連の支払備金の戻入益が当期においては減益要因となったものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少や逆ざやの解消などにより、前年同期に比べ12.0%増加の570億円となりました。

スライド13をご覧ください。

ライフプランナー在籍数



(注) ()は、嘱託ライフプランナー数で、内数です。
 嘱託ライフプランナーとは、定年退職を迎えた後も、販売状況などの一定の要件を満たすことで、ライフプランナーとしての活動を続けている営業社員です。

※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。

ライフプランナー在籍数は、前四半期末から40名減少、前年同期末からは35名増加の、4,031名となりました。

また、当年度第1四半期より嘱託ライフプランナーについても内数にて開示しております。

スライド14をご覧ください。

一般勘定資産の内訳

(億円)

	12.3末		12.12末	
	金額	割合	金額	割合
公社債	39,757	83.2%	43,705	84.5%
株式	450	0.9%	285	0.6%
外国公社債	596	1.2%	605	1.2%
外国株式等	305	0.6%	244	0.5%
金銭の信託	2,882	6.0%	2,932	5.7%
約款貸付	1,387	2.9%	1,420	2.7%
不動産	729	1.5%	715	1.4%
現預金・コールローン	648	1.4%	581	1.1%
その他	1,026	2.1%	1,237	2.4%
合計	47,785	100.0%	51,729	100.0%

<資産運用状況>

公社債：2012年度・・・超長期債購入継続

〔債券のDuration〕

11. 3末 18.5 年

12. 3末 19.2 年

12.12末 19.1 年

■「金銭の信託」は主に公社債を中心に運用。

■一般勘定資産における公社債(金銭の信託で運用されているものを含む)の実質的な構成比

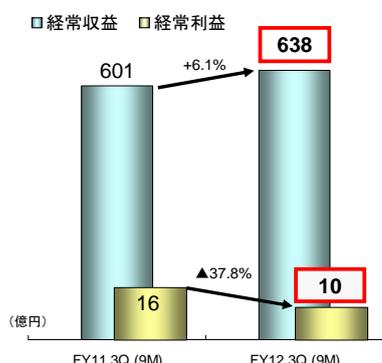
12.12末・・・90.2% (12.3末・・・89.2%)

前年度末と比較した、2012年12月末の一般勘定資産の内訳はご覧のとおりです。

引き続き、超長期債への投資を推進したことから公社債の割合が高まり、金銭の信託で運用されている公社債も含めた実質ベースの公社債比率は2012年12月末で90.2%となりました。

今後も保険負債の持つ金利リスクを適切にコントロールするため、保険料収入などから生じる新たな資金の大半を超長期債に投資していきます。

次のスライド15から、ソニー損保の業績についてご説明いたします。



- ◆ 前年同期比 増収減益。
- ◆ 自動車保険を中心とした保有契約件数の伸びにより正味収入保険料が増加したことから、経常収益は増加。
- ◆ 自動車保険における保険金単価の上昇などにより損害率が上昇したことから、経常利益は減少。

(億円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	前年同期比	
経常収益	601	638	+36	+6.1%
保険引受収益	594	630	+35	+6.0%
資産運用収益	6	7	+0	+14.2%
経常費用	584	627	+43	+7.4%
保険引受費用	441	476	+34	+7.8%
資産運用費用	0	0	+0	157.0%
営業費及び一般管理費	142	150	+8	+6.3%
経常利益	16	10	▲6	▲37.8%
四半期純利益	5	5	+0	+13.3%

(億円)	12.3末	12.12末	前年度末比	
責任準備金残高	673	710	+37	+5.5%
純資産額	180	187	+7	+4.2%
総資産額	1,186	1,233	+47	+4.0%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の経常収益は、自動車保険を中心とした保有契約件数の伸びにより正味収入保険料が増加したことから、前年同期に比べ6.1%増加し、638億円となりました。

経常利益は、自動車保険の保険金単価の上昇などにより損害率が上昇したことから、前年同期に比べ37.8%減少し、10億円となりました。

四半期純利益は、前年同期に法人税率引き下げにともない繰延税金資産の一部を取り崩した影響もあり、前年同期比13.3%増の5億円となりました。

スライド16、17では、ソニー損保の主要業績指標、種目別保険引受の状況を記載しております。後ほどご覧ください。

続きまして、スライド18 から、ソニー損保の業績の詳細をご説明いたします。

ソニー損保 主要業績指標



(億円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	前年同期比
元受正味保険料	588	621	+5.7%
正味収入保険料	594	629	+6.0%
正味支払保険金	329	350	+6.3%
保険引当利益	11	3	▲69.7%
正味損害率	61.8%	62.4%	+0.6pt
正味事業費率	25.5%	25.5%	0.0pt
コンバインド・レシオ	87.4%	87.9%	+0.5pt

<主な増減要因>

◆ 自動車保険を中心とした保有契約件数の増加により、増加。

◆ 自動車保険の保有契約件数の増加に伴う支払件数の増加などにより、増加。

◆ 保険金単価の上昇や損害調査費の増加により、上昇。

(注) 正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料
 正味事業費率 = 保険引当に係る事業費 ÷ 正味収入保険料

	12.3末	12.12末	前年度末比	
保有契約件数	149万件	154万件	+5万件	+3.9%
単体 ソルベンシー・マージン比率	557.8%	525.0%	▲32.8pt	

◆ 自動車保険を中心に保有契約件数が増加。

(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。
 (注) 単体ソルベンシー・マージン比率は、いずれも2012年3月末(2011年度末)から適用された現行基準により算出したもの。

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保 種目別保険引受の状況

元受正味保険料

(百万円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	増減率
火 災	118	171	+45.3%
海 上	—	—	—
傷 害*	5,517	5,883	+6.6%
自 動 車	53,177	56,129	+5.6%
自 賠 責	—	—	—
合計	58,812	62,185	+5.7%

正味収入保険料

(百万円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	増減率
火 災	68	80	+16.4%
海 上	50	105	108.5%
傷 害*	5,681	6,073	+6.9%
自 動 車	52,978	55,922	+5.6%
自 賠 責	647	805	+24.4%
合計	59,426	62,987	+6.0%

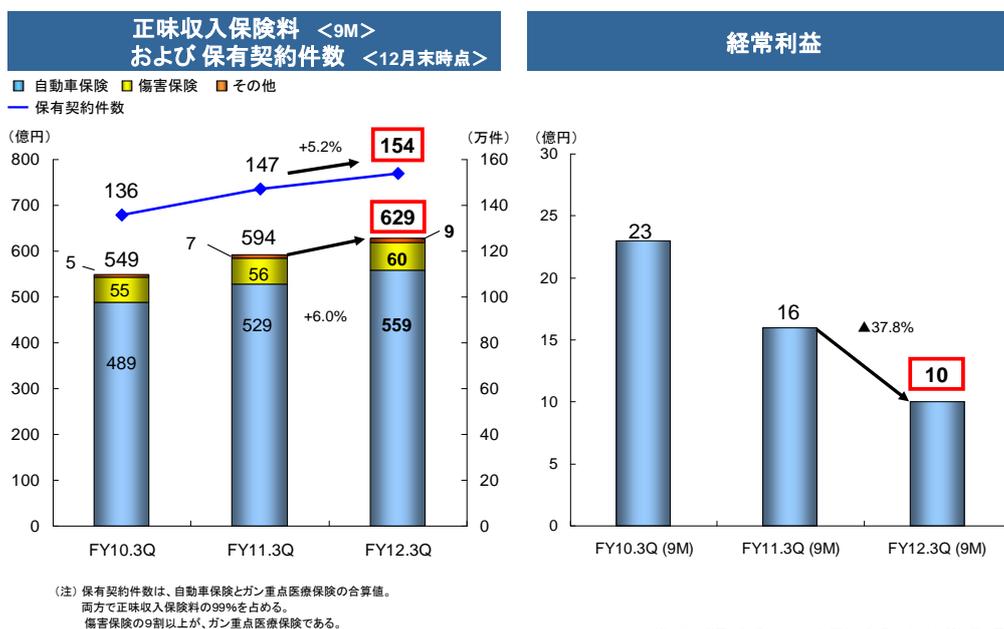
*「傷害」にはガン重点医療保険SURE(シュア)が含まれる。

正味支払保険金

(百万円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	増減率
火 災	40	0	▲98.0%
海 上	104	160	+53.8%
傷 害*	1,352	1,467	+8.5%
自 動 車	30,806	32,662	+6.0%
自 賠 責	647	750	+15.9%
合計	32,951	35,041	+6.3%

※金額は百万円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の業績(1)



(左側のグラフ)

折れ線グラフで示しております保有契約件数は増加し、自動車保険とガン重点医療保険の合計で、前年同期に比べ5.2%増加の154万件となりました。

棒グラフで示しております正味収入保険料は、前年同期に比べ6.0%増加し、629億円となりました。

(右側のグラフ)

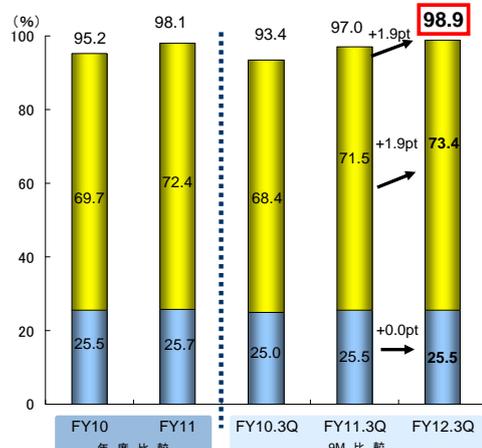
経常利益は、先のご説明のとおり、損害率が上昇したことから、前年同期に比べ減益となりました。

スライド19をご覧ください。

ソニー損保の業績(2)

E.I.損害率+正味事業費率

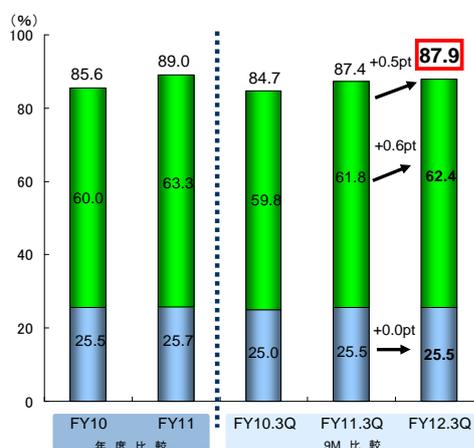
■ E.I.損害率 ■ 正味事業費率



(注) E.I.損害率 = (正味支払保険金+支払備金繰入額+損害調査費)÷既経過保険料
 (除く地震保険、自賠責保険)
 正味事業費率 = 保険引受に係る事業費÷正味収入保険料

<参考> コンバインド・レシオ (正味事業費率+正味損害率)

■ 正味損害率 ■ 正味事業費率



(注) 正味損害率 = (正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料
 正味事業費率 = 保険引受に係る事業費÷正味収入保険料

(左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、スライドで「E.I.損害率」と記載しております、損害率を発生ベースで表したアード・インカード損害率についてご説明いたします。

E.I.損害率は、主に自動車保険における保険金単価の上昇などにより、前年同期に比べ1.9ポイント上昇し、73.4%となりました。
 正味事業費率は、適切な事業費コントロールにより前年同期と同率の25.5%となりました。

この結果、E.I.損害率と正味事業費率を合わせた合算率は、前年同期に比べ1.9ポイント上昇し、98.9%となりました。

(右側のグラフ)

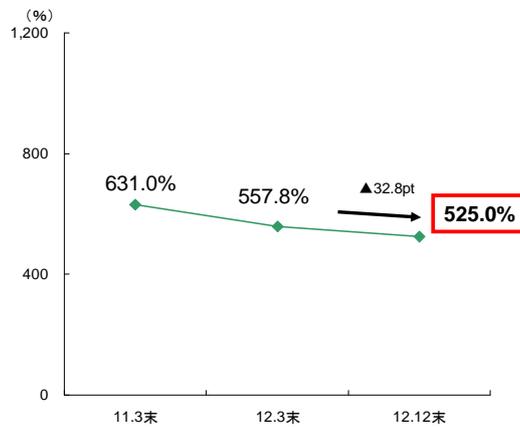
正味損害率は、前年同期に比べ0.6ポイント上昇し、62.4%となりましたが、E.I.損害率と同様の理由により、前年同期に比べて上昇しました。

なお、正味損害率は、支払備金繰入額を反映していないなどの点で、E.I.損害率とは計算方法が異なります。

正味損害率と正味事業費率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ0.5ポイント上昇し、87.9%となりました。

スライド20をご覧ください。

単体ソルベンシー・マージン比率



(注) 単体ソルベンシー・マージン比率は、いずれも2012年3月末(2011年度末)から適用された現行基準により算出したもの。

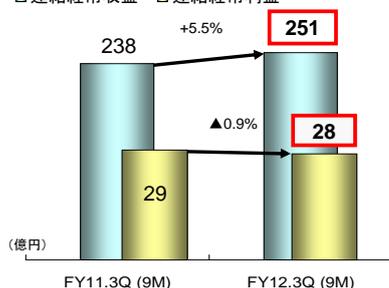
単体ソルベンシー・マージン比率は、
前年度末に比べ32.8ポイント低下し、525.0%となりました。

次のスライド21から、ソニー銀行の業績についてご説明いたします。

ソニー銀行 業績ハイライト(連結・単体)



□ 連結経常収益 □ 連結経常利益



<連結>

◆ 連結経常収益は、㈱スマートリンクネットワークの子会社化により役務取引等収益が増加し、増収。連結経常利益は横ばい。連結四半期純利益は、昨年8月1日のソニーバンク証券の譲渡にともなう税効果により、増益。

<銀行単体>

◆ 業務粗利益は、前年同期比減少。
 ・資金運用収支は、住宅ローン残高の増加にともない貸出金利息が増加した一方で、資金調達費用は減少し、増加。
 ・役務取引等収支は、外国為替証拠金取引の手数料無料化の影響もあり、微減。
 ・その他業務収支は、債券関連取引に係る利益が減少したことにより、減少。
 ◆ 業務純益は、業容拡大にともなう人員増強などにより営業経費が増加したこともあり、減少。
 ◆ 四半期純利益(損失)は、ソニーバンク証券の譲渡に係る特別損失(28億円)を計上したことにより、損失を計上。

<連結>

(億円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	前年同期比	
連結経常収益	238	251	+13	+5.5%
連結経常利益	29	28	▲0	▲0.9%
連結四半期純利益	11	22	+11	+95.0%

<銀行単体>

(億円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	前年同期比	
経常収益	221	228	+6	+2.8%
業務粗利益	136	133	▲3	▲2.2%
資金運用収支	120	131	+10	+8.9%
役務取引等収支	0.7	▲0.0	▲0.7	—
その他業務収支	14	1	▲12	▲86.8%
営業経費	102	105	+3	+3.0%
業務純益	31	28	▲3	▲11.3%
経常利益	29	26	▲2	▲8.9%
四半期純利益(損失)	16	▲1	▲17	—

(億円)	12.3末	12.12末	前年度末比	
純資産額	627	644	+16	+2.6%
その他有価証券 評価差額金	17	40	+23	+130.3%
総資産額	18,905	20,029	+1,124	+5.9%

※金額は億円未満切捨て(役務取引等収支を除く)、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行の連結経常収益は、2011年7月にソニー銀行がスマートリンクネットワーク社を子会社化したことにより役務取引等収益が増加し、増収となりました。
 連結経常利益は、横ばいとなりました。

連結四半期純利益は、昨年8月1日のソニーバンク証券の譲渡にともなう税効果により、増益となりました。

ソニー銀行単体の業務粗利益は、前年同期に比べ2.2%減少し、133億円となりました。
 これは、住宅ローンに係る利益が増加した一方で、外貨関連取引の利益が減少したことによるものです。

業務純益は、業容拡大にともなう人員増強などにより営業経費が増加したこともあり、前年同期に比べ11.3%減少し、28億円となりました。

ソニー銀行単体の四半期純利益(損失)は、前述の子会社であるソニーバンク証券の譲渡に係る特別損失を28億円計上したことにより、1億円の損失となりました。

スライド22では、ソニー銀行の主要業績指標を記載しております。

スライド23をご覧ください。

ソニー銀行 主要業績指標(単体)①



(億円)	11.12末	12.3末	12.12末	前年度末比	
預かり資産残高	17,834	18,643	19,730	+1,087	+5.8%
預金	16,883	17,622	18,684	+1,061	+6.0%
円預金	13,340	13,905	14,889	+983	+7.1%
外貨預金	3,543	3,717	3,794	+77	+2.1%
投資信託	950	1,020	1,046	+25	+2.5%
貸出金残高	8,059	8,355	9,297	+942	+11.3%
住宅ローン	7,227	7,496	8,306	+810	+10.8%
その他	832	859	991 ^{*1}	+131	+15.3%
自己資本比率 (国内基準)^{*2}	11.86%	11.58%	10.71%	▲0.87pt	
Tier1 比率	9.85%	9.63%	8.91%	▲0.72pt	

＜主な増減要因＞

◆ 円預金残高は、夏季ボーナスシーズンの特別企画が好調だったことや、昨年12月末にかけての円安進行により外貨預金から円預金へのシフトが進み、増加。

◆ 外貨預金残高は、昨年12月末にかけての円安進行により外貨が売られたものの、円換算の影響(+193億円)が上回り、増加。

◆ 貸出金残高は、住宅ローン残高の伸びに加え、シンジケート・ローンを中心とした法人融資残高の増加により、増加。

*1 うち925億円は法人向け

*2 25ページの自己資本比率(国内基準)の推移ご参照

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行 主要業績指標(単体)②



<参考> 社内管理ベース

(億円)	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	前年同期比	
業務粗利益	135	132	▲3	▲2.2%
資金収支 ¹ ①	126	130	+4	+3.3%
手数料等収支 ² ②	7	4	▲3	▲42.0%
その他収支 ³	1	▲2	▲3	—
コアベース業務粗利益 (A) =①+②	134	135	+0	+0.6%
営業経費等 ③	104	104	+0	+0.6%
コアベース業務純益 =(A)-③	30	30	+0	+0.9%

■ 社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

*1 資金収支 …… 資金運用収支+その他業務収支に計上されている
実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

*2 手数料等収支 … 役員取引等収支+その他業務収支に計上されている
お客さまとの外貨売買取引にかかる収益

*3 その他収支 …… その他業務収支から*1と*2の調整分を控除したもの
(主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益)

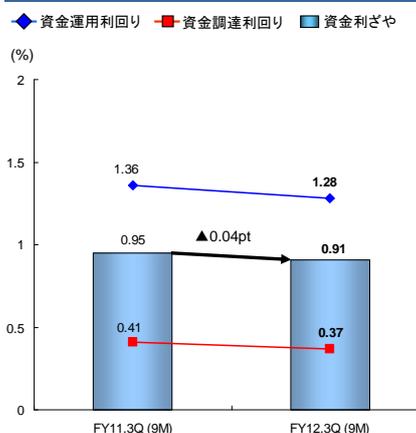
■ コアベース

社内管理ベースの その他収支 (主な内容は債券関係損益およびデリバティブ
関連損益) を除いたもので、ソニー銀行の基礎的な収益を表すもの

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

※当期より、社内管理ベースの算出方法を一部変更しました。そのため、FY11.3Qにつきまして、当期と同様の算出を行った場合の金額を記載しています。

<参考> 資金利ざや(社内管理ベース)の推移



(注) 資金利ざや = 資金運用利回り - 資金調達利回り

23

このスライドでは、ソニー銀行の本業における収益力をより適切にご理解いただくために、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明いたします。

(左側のテーブル)

資金収支は、外貨関連取引の収支が悪化した一方、住宅ローンを中心に業容が拡大したことにより、前年同期に比べ4億円増加し、130億円となりました。

手数料等収支は、外国為替相場の動向等を受けてお客さまとの外貨売買取引にかかる収益が減少したことなどにより、前年同期に比べ3億円減少し、4億円となりました。

その結果、コアベース業務粗利益は、前年同期比横ばいの135億円、コアベース業務純益も同じく横ばいの30億円となりました。

(右側のグラフ)

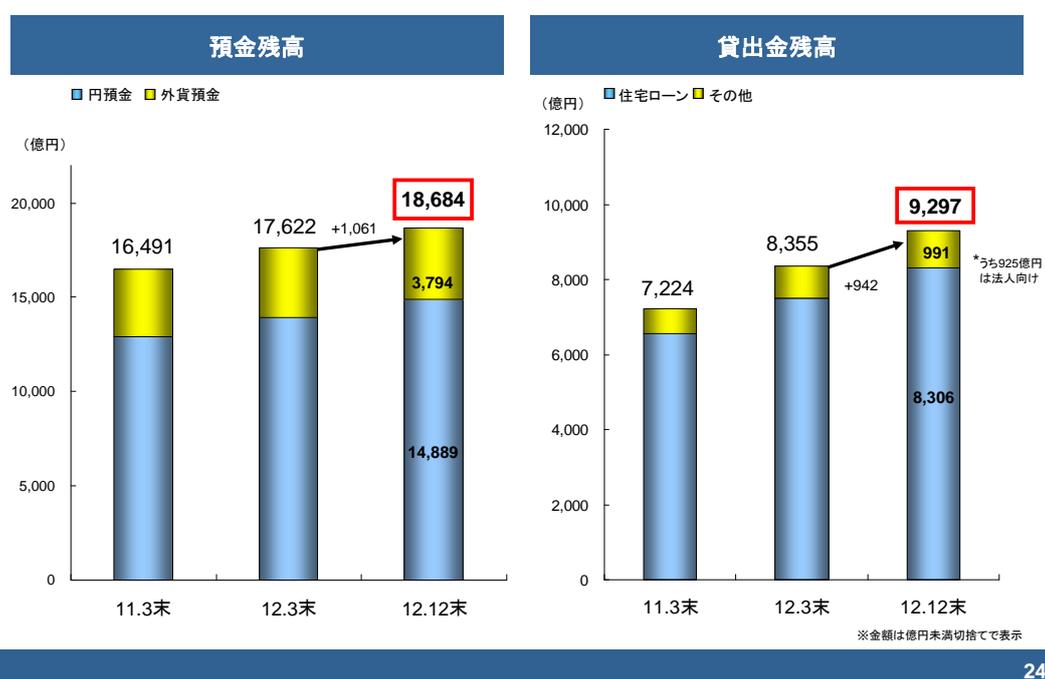
青い折れ線グラフで示しております資金運用利回りは、1.28%となりました。

赤い折れ線グラフで示しております資金調達利回りは、0.37%となりました。

その結果、棒グラフで示しております資金利ざやは、0.91%となりました。

スライド24をご覧ください。

ソニー銀行の業績(単体)(1)



業容の推移について、前年度末からの増減をご説明いたします。

(左側のグラフ)

預金残高は前年度末に比べ1,061億円増加し、1兆8,684億円となりました。うち、円預金の残高は、夏季ボーナスシーズンの特別企画が好調だったことや、昨年12月末にかけての円安進行により外貨預金から円預金へのシフトが進み、前年度末に比べ983億円増加の1兆4,889億円となりました。また、外貨預金の残高は、円安進行により外貨が売られたものの、円換算の影響が上回り、77億円増加の3,794億円となりました。

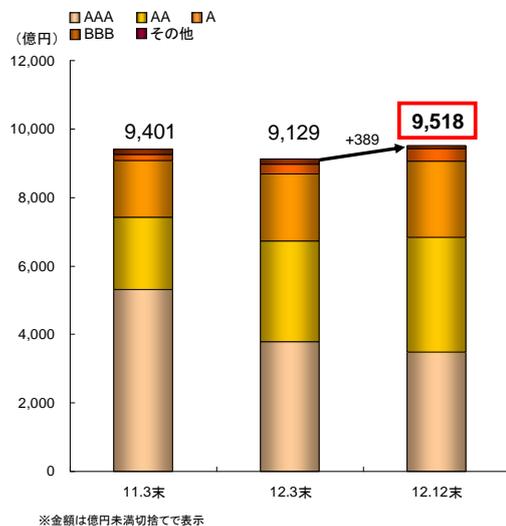
(右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローンの順調な伸びに加え、シンジケート・ローンを中心とした法人融資残高の増加もあり、前年度末に比べ942億円増加し、9,297億円となりました。

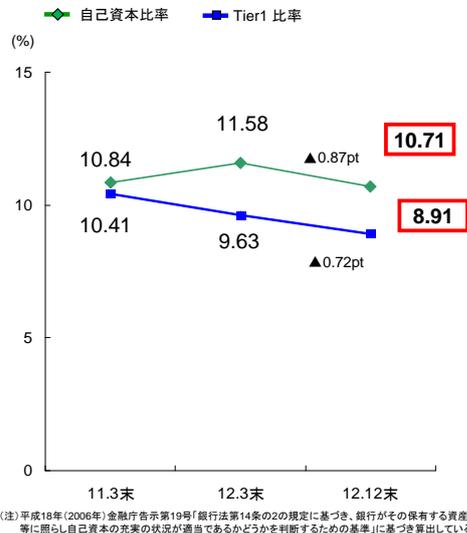
スライド25をご覧ください。

ソニー銀行の業績(単体)(2)

格付別の有価証券残高の推移



自己資本比率(国内基準)の推移



(左側のグラフ)

有価証券残高は、前年度末に比べ389億円増加し、9,518億円となりました。引き続き、高格付の債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、前年度末に比べ0.87ポイント減少し、10.71%となりましたが、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

以上で、3社の業績のご説明を終わります。

続きましてスライド27をご覧ください。

2012年度 連結業績予想



2012年度 連結業績予想

通期連結経常収益、連結経常利益、連結純利益を上方修正

(億円)	FY11 (通期実績)	FY12 (今回予想)	FY12 (前回予想)	増減額 FY12 (今回予想) vs FY12 (前回予想)
連結経常収益	10,780	11,570	11,150	+420
うち生命保険事業	9,675	10,381	9,945	+436
うち損害保険事業	800	850	850	—
うち銀行事業	325	345	345	—
連結経常利益	746	740	670	+70
うち生命保険事業	681	685	615	+70
うち損害保険事業	28	26	26	—
うち銀行事業	34	36	36	—
連結純利益	328	410	370	+40

※金額は億円未満切捨てで表示

■生命保険事業

経常収益、経常利益ともに、9カ月累計の実績が想定を上回って推移したこと並びに年初からの市況動向などを勘案し、前回の通期予想を上方修正。

■損害保険事業

経常収益、経常利益ともに前回の通期予想を据え置き。

■銀行事業

経常収益、経常利益ともに前回の通期予想を据え置き。

(注) 2012年5月10日に発表した通期予想を2013年2月7日に修正。

2012年度連結業績予想は、生命保険事業において、主に9カ月累計の実績が想定を上回って推移したことにより、昨年5月10日に公表した数値から上方修正いたしました。

なお、業績予想修正数値には、年初からの市況動向を勘案しておりますが、実際の業績は、様々な要因により、これと異なる可能性があります。

スライド29をご覧ください。

ソニー生命の2012年12月末MCEV および経済価値ベースのリスク量



ソニー生命の2012年12月末MCEV および経済価値ベースのリスク量



(億円)	12.3末 (国債レート)	12.12末 (国債レート)	増減
MCEV	10,415	10,794	+378
修正純資産	4,092	4,503	+411
保有契約価値	6,324	6,291	▲33

(1) 2012年12月末の保有契約をベースとして、解約・失効率と経済前提をアップデート。
 (2) 2012年12月末の計算は、一部簡易な計算を実施。

(主な増減理由)

◆ 新契約価値の順調な積み上がりがMCEVの増加に貢献。

(億円)	12.3末	12.12末	増減
経済価値ベースのリスク量	5,515	6,026	+511

(注) 経済価値ベースのリスク量の測定においては、1年VaR99.5%水準とし、EUソルベンシーII (QIS5)の標準モデルを参考にした内部モデルを採用。

※ 本計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。

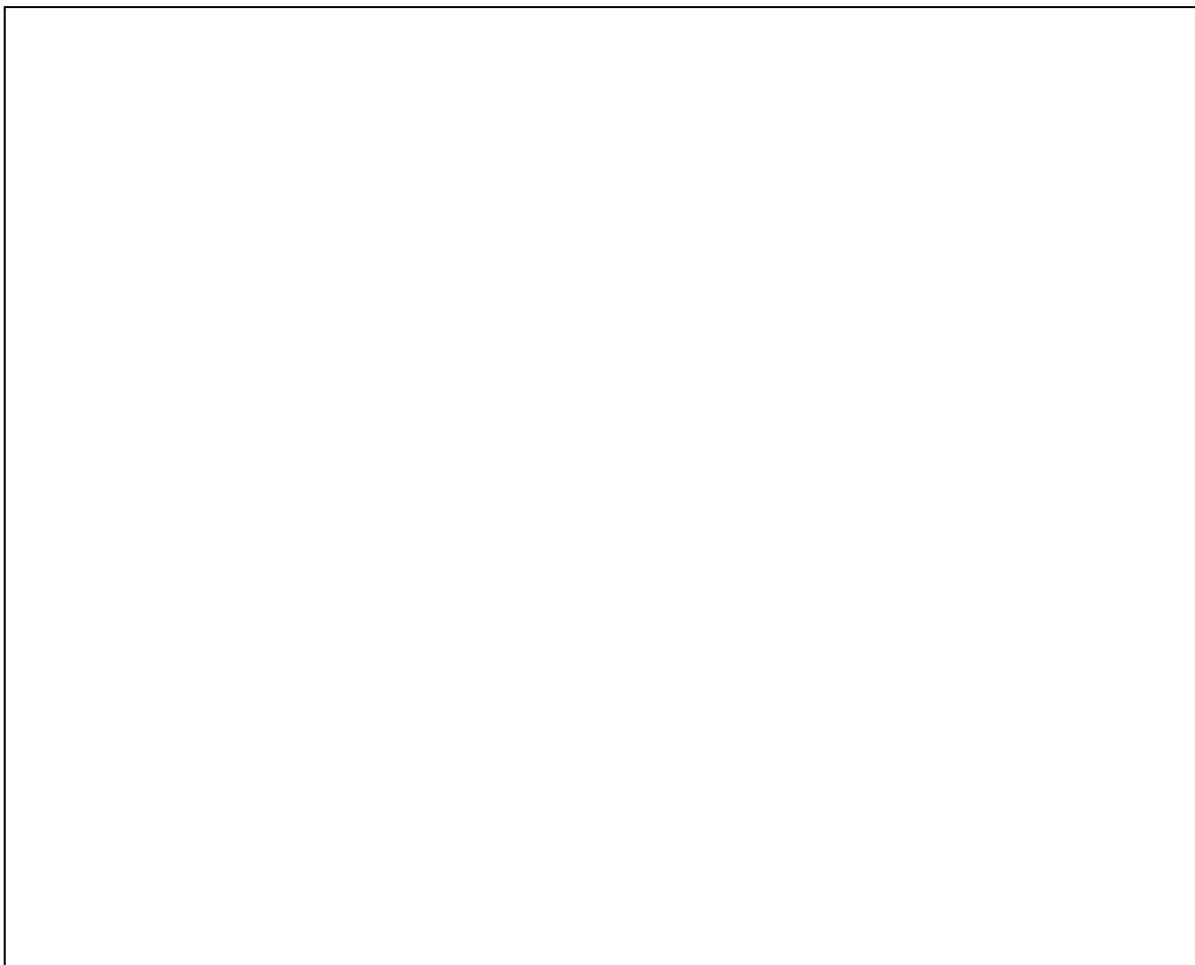
ソニー生命の2012年12月末のMCEVは、3月末と比べて378億円増加し、1兆794億円となりました。
 これは、新契約価値の順調な積み上がりがMCEVの増加に貢献したことによるものです。

また、2012年12月末の経済価値ベースのリスク量は6,026億円でした。

以上で、説明を終了いたします。

ありがとうございました。

参考情報



その他トピックス①

ソニーライフ・エイゴン生命の営業状況

営業開始：2009年12月1日

資本金：200億円(資本準備金100億円を含む)

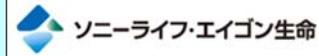
株主：ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%

取扱商品：変額個人年金保険(2種類4商品*)

販売チャネル：ライフプランナー、および銀行等(計9社*) *2013年2月14日現在

主要業績指標(2012年度第3四半期(9ヶ月累計)):

新契約件数: 3,974件、新契約高: 273億円 (2012年12月末 ... 保有契約件数: 7,560件、保有契約高: 577億円)



ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取扱い状況

■ 2012年12月末の住宅ローン残高の25%

2012年度第3四半期(9ヶ月累計)の住宅ローン新規融資実行金額の24%

※銀行代理業務取扱い開始：2008年1月



ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取扱い状況

■ 2012年度第3四半期(9ヶ月累計)の新規自動車保険契約件数の約5%

※自動車保険取扱い開始：2001年5月



※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。

<2012年度第3四半期以降の主な取り組み>

- | | | |
|-------------|--|--|
| 2012年10月1日 |  損保 | ソニー損保、自動車保険のご契約者に対し、事故受付後1時間以内に専任担当者からご連絡することを約束 |
| 2012年10月11日 |  損保 | ソニー損保、スマートフォン向け無料アプリ「トラブルナビ」に、「今ここGPS」と国内損保初の機能「今どこリーダー」を追加 |
| 2012年10月19日 |  生保 | ソニー生命、「共創プロジェクト」第2フェーズ リリース |
| 2012年10月22日 |  銀行 | ソニー銀行、「中国人民幣元(CNH)、南アフリカランド、スウェーデンクローナ」外貨預金の取り扱い開始 |
| 2012年11月1日 |  損保 | ソニー損保、自動車保険について証券ペーパーレス割引や特約の新設などの商品改定を実施。
(2012年11月1日以降が保険始期日となる契約が対象) |
| 2012年11月14日 |  当社 | 2012年度(第9期) 配当予想(増配)を発表 |
| 2012年12月1日 |  銀行 | ソニー銀行、外貨預金(全12通貨)の為替手数料を引き下げ、優遇制度を改定 |
| 2012年12月6日 |  生保 | ソニー生命、Sony Life Insurance (Philippines) Corporationの事業譲渡 |
| 2013年1月14日 |  銀行 | ソニー銀行、マネックス証券との新たな金融商品仲介サービス開始 |
| 2013年1月28日 |  銀行 | ソニー銀行、Windows 8アプリ「カンタン外貨チャート」の提供開始 |
| 2013年1月31日 |  当社 | 第2回 無担保社債を発行 (2013年2月1日 ソニー銀行の財務基盤強化を目的とした同社への劣後ローンに充当) |

有価証券の時価情報

売買目的有価証券を除く有価証券の時価情報のうち、時価のあるもの

(億円)

区 分	11.3末			12.3末			12.12末		
	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益
満期保有目的の債券	29,143	28,921	▲ 221	34,048	35,606	1,558	37,418	39,018	1,599
その他有価証券	9,401	9,643	242	8,951	9,561	609	9,290	10,044	753
公社債	8,844	9,041	197	8,491	9,026	534	8,983	9,667	684
株式	498	537	38	291	349	58	147	184	36
外国証券	19	18	▲ 0	153	167	13	144	173	28
その他の証券	38	46	7	14	17	2	14	18	4
合 計	38,544	38,565	20	42,999	45,168	2,168	46,709	49,062	2,353

売買目的有価証券の評価損益

(億円)

11.3末		12.3末		12.12末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
—	—	—	—	—	—

(注) 上記の売買目的有価証券は、「金銭の信託」に含まれているものも含む。

※金額は億円未満切捨てで表示

ソニー生命の利配収入内訳



(単位: 千円)

	FY11.3Q (9M)	FY12.3Q (9M)	前年同期比
現預金	8	8	+7.0%
公社債	56,949,370	64,739,220	+13.7%
株式	527,819	351,448	▲33.4%
外国証券	2,294,520	2,802,992	+22.2%
その他の証券	241,659	177,645	▲26.5%
貸付	4,022,561	4,085,144	+1.6%
不動産	8,438,666	8,143,397	▲3.5%
その他	74,081	57,550	▲22.3%
合計	72,548,689	80,357,408	+10.8%

※金額は千円未満切捨て



お問い合わせ先:
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
広報・IR部
TEL: 03-5785-1074